様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２８ 日現在

機関番号：１８００１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ００８３６

研究課題名（和文）近代日本の国家形成と「旧慣」調査－田代安定による沖縄と台湾の調査資料に基づいて

研究課題名（英文）Formation of the Modern Japan and the Survey of "Old Customs": A Research Based on the Surveys of Okinawa and Taiwan by TASHIRO Yasusada

研究代表者
大浜　郁子（OHAMA, Ikuko）

琉球大学・人文社会学部・准教授

研究者番号：６０４５９９６４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、田代安定による「旧慣」調査資料のうち、「沖縄関係資料」の翻刻を継続的に行い、国内外に分散所蔵される田代関係資料の収集や新史料の発掘を行うことによって、田代研究の基盤整備を行った。田代の八重山の「旧慣」調査に関して、一次史料の考察を行うとともに、実際に田代が調査した複数の旧集落と現在の比較を行い、田代の建議の正確性を確認し得た。本研究により、田代の八重山と台湾における「旧慣」調査と建議が、政府高官や台湾総督府官僚達による政策立案に反映されている事例がいくつか明らかとなった。田代の沖縄と台湾に関する調査資料に基づいて、「旧慣」調査と日本の近代国家形成に関する研究を進展させることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
田代安定は、1880年代から1920年代にかけて、沖縄と台湾において「旧慣」調査を行った人物である。田代は、「旧慣」調査に基づいて、多種多様な建議書などを政府高官たちに提出した。本研究は、田代の「旧慣」調査と建議が、日本の近代国家形成と植民地統治へと結びついていることを明らかにするものである。本研究によって、台湾大学図書館特蔵室蔵「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」の全文翻刻が完成すれば、沖縄戦で多くの史資料を失った沖縄にとっては貴重な資料となる。田代は、笹森儀助の『南嶋探験』や柳田国男の南島研究、「琉球処分官」松田道之へ助言した福沢諭吉にも影響を与えており、田代研究の学術的社会的意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：This study has developed a foundation for the research about TASHIRO Yasusada by continuing to transcribe "Okinawa-related materials" from among his surveys on "old customs", and by collecting TASHIRO-related materials scattered in Japan and abroad and discovering new historical facts and documents. In addition to examining primary materials related to TASHIRO's survey of "old Customs" in the Yaeyama Islands, we compared the results of his study with the current state of those settlements today, and we were able to confirm the accuracy of his findings and propositions. This study reveals several cases in which TASHIRO's research and recommendations on "old customs" in Yaeyama and Taiwan were reflected in the administrative policy by Japanese government officials. Based on the findings from TASHIRO's research materials on Okinawa and Taiwan, we were able to advance our research on "old custom" surveys and their relationship to the formation of the modern Japanese state.

研究分野：日本近現代史

キーワード：田代安定　「旧慣」調査　近代日本の国家形成　近代沖縄　近代台湾

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

（1）田代安定（たしろ やすさだ 1857～1928）は、1880 年代から 1920 年代にかけて、主に沖縄と台湾において「旧慣」調査を行った人物である。田代の「旧慣」調査に関する膨大な一次史料は、台湾大学図書館特蔵室に「田代文庫」として現存しており、台湾関係資料などの一部がデジタル資料として同館 HP 上で公開されるにとどまっていた。研究代表者は、2005 年の「田代文庫」調査開始時から、幾度も（代替わりの度に）同館長や関係者に対して、「田代文庫」所蔵の「沖縄関係資料」は、沖縄戦で史資料の多くを喪失した沖縄にとって第一級史料であることなどを縷々説明して、デジタル化と全面公開を要望してきた。現在は、デジタル化された「沖縄関係資料」も順次公開され、基盤整備がなされつつある。

田代安定の関係資料は、他にも、国史館台湾文献館、国立公文書館、国立国会図書館、青森県立図書館、鹿児島大学附属図書館など、国内外に分散所蔵されている。

（2）草書体で執筆された膨大な田代の一次史料は、ほとんど活用されていない。その理由は、台湾人研究者は、日本語に加えて古文書解読力を修得するには相当の時間と労力を要するためであり、古文書解読の訓練を受けた日本人研究者には制約があるためである。研究代表者は、一次史料を用いた田代研究を行い得る唯一の研究者といっても過言ではない。特に、「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」は、沖縄に固有の地名や人名、王府時代の役職名や各地の独特の風習が多く記録されており、沖縄研究者でなければ、文字は読めても内容を理解することはできない。そのため、沖縄近現代史を専門とする研究代表者が、細々ながら解読を続けてきたのである。

（3）田代安定は、沖縄と台湾における「旧慣」調査に基づき、両地域の統治政策に関して、多種多様な復命書や建議書などを提出している。しかし、これらの田代の建議が、日本の近代国家形成と植民地統治にどのように影響したのか、についての研究はほとんど行われていない。

２．研究の目的

本研究の目的は、田代安定が行った沖縄と台湾における「旧慣」調査の全体像を明らかにするとともに、田代の「旧慣」調査が日本の近代国家形成と植民地統治にどのような影響を与えたのかを明らかにすることである。

（1）台湾大学図書館特蔵室蔵「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」を全文翻刻するとともに、特に、八重山諸島開拓「植民」に関する田代の建議が、日本の沖縄統治政策とその後の台湾統治政策の形成過程において果たした役割を解明する。

（2）田代が「旧慣」調査を行った八重山の旧集落を調査し、旧集落の当時と現在の状況を比較検討することによって、田代の「旧慣」調査と建議の内容を考察する。

（3）国内外に現存する田代安定関係資料を収集し、これらに依拠して、田代が八重山で行った「旧慣」調査の方法と彼の「植民」論とが、日本の台湾植民地統治に連関性を有していたことを解明する。

（4）国内外に分散所蔵されている田代関係資料をすべて網羅した総合目録を作成して、データベースを構築し、電子データ化することによって、日本が植民地において実施した「旧慣」調査を総合的に解明するため、今後の研究の基盤づくりをする。

３．研究の方法

（1）台湾大学図書館特蔵室蔵「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」の継続的な全文翻刻を行うとともに、研究テーマに関する一次史料を抽出する。

①「沖縄関係資料」の翻刻を行うに際しては、所蔵館の HP 上の「田代文庫」ではすべての資料が公開されているわけではないため、所蔵室内でのみ閲覧が許可されているデジタル化された史料を優先的に翻刻する。デジタル資料では不鮮明な史料については、可能な限り、原史料との照合を行いつつ、翻刻を進める。「田代文庫」の原史料は複写が禁じられているため、虫損などによる破損や劣化で判読困難など状態が良好でない史料も多いため、原史料と翻刻には多くの時間を要する。しかし、研究代表者は、約 18 年に及ぶこれまでの調査から判断して、比較的保存状態の良好な史料を優先的に筆写し、翻刻した史料は電子データ化することによって、効率的に作業を進める。なお、COVID-19 の影響などで原史料の調査ができない場合には、これまでの調査で筆写によって得られた史料の翻刻に切り替えて、可能な限り、研究を進展させる。

②「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」および「台湾関係資料」から、それぞれ田代の八重山諸島の開拓「植民」と「原住民」に対する統治政策に関する建議書などの一次史料を抽出する。

（2）「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」のうち、田代が「旧慣」調査を行った八重山の関係資料に基づいて、旧集落を調査し、旧集落の当時と現在の状況を比較検討することによって、田代の「旧慣」調査と建議の内容を考察する。

（3）国内外に分散所蔵される田代の関係資料を収集して分析を行うとともに、将来的な田代関係資料の総合目録の完成に備えて、継続してデータベースを構築する。

①国立公文書館、国立国会図書館などの国内の所蔵館については、デジタル公開資料を収集・分析するとともに、悉皆調査によって、田代の新史料の発掘に努める。

②国内外に分散所蔵されている田代の関係資料の総合目録を作成して、データベースを構築し、電子データ化する。田代の新史料を発掘した際には、総合目録に加えるとともに、電子データ化して、公表に備える。
（4）八重山の開拓「植民」に関する田代の建議が、日本の沖縄統治政策とその後の台湾統治政策の形成過程において果たした役割については、「田代文庫」に収録される関係資料を抽出し、「内国植民地」と「外地植民地」の概念を用いて、両地域における田代の複数の建議を考察する。また、国内外に分散所蔵される田代の関係資料からも、両地域の関連資料を抽出する。さらに、田代による沖縄と台湾における統治政策の建議が、どのような影響を与えたのかについて、同時代の政府高官や台湾総督府の官僚たちの関係資料と照合することによって、明らかにする。
得られた新しい知見は、研究報告して、論文にまとめて公表する。

４．研究成果
（1）台湾大学図書館特蔵室蔵「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」の継続的な翻刻を行うとともに、研究テーマに関する一次史料を抽出した。
①「沖縄関係資料」の翻刻については、所蔵室内でのみ閲覧が許可されているデジタル化された史料の調査は、COVID-19 の影響により実施できなかった。しかし、研究代表者が約 18 年前より行ってきた調査において筆写して得られた史料の翻刻に切り替えて、翻刻を進展させた。
②「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」および「台湾関係資料」から、それぞれ田代の八重山の開拓「植民」と「原住民」に対する統治政策に関する建議書などの一次史料を抽出した。
（2）「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」のうち、田代が「旧慣」調査を行った八重山の関係資料に基づいて、複数の旧集落を調査した。複数の旧集落の当時と現在の状況を比較検討し、田代の「旧慣」調査と建議の内容を考察した結果、田代が消滅危機を訴えていた集落が実際に後に消滅していたことなどを確認することができた。
（3）国内外に分散所蔵される田代の関係資料を収集して分析を行うとともに、将来的な田代関係資料の総合目録の完成に備えて、継続してデータベースを構築した。
①国立公文書館、国立国会図書館などの国内の所蔵館については、デジタル公開資料を収集・分析するとともに、悉皆調査によって、田代の新史料の発掘に努めた。その結果、新たに、他の研究機関が所蔵する史料の調査が必要となり、継続して調査している。
②国内外に分散所蔵されている田代の関係資料の総合目録を作成して、データベースを構築し、電子データ化する作業を継続的に行った。見出した田代の新史料は、総合目録に追加して、電子データ化して、公表に備えた。
（4）八重山の開拓「植民」に関する田代の建議が、日本の沖縄統治政策とその後の台湾の統治政策の形成過程において果たした役割については、「田代文庫」に収録される関係史料を抽出し、また、国内外に分散所蔵される田代の関係資料からも、両地域の関係資料を抽出した。さらに、田代による沖縄と台湾における統治政策の建議が、どのような影響を与えたのかについて、同時代の政府高官や台湾総督府の官僚たちの関係資料と実際の施策とを照合することによって、いくつかの事例を明らかにした。得られた知見は、研究報告し、論文にまとめて公表した。
①初年度には、本研究に接続する研究研究成果について、2020 年に国際シンポジウム「第十一屆臺灣總督府檔案學術研討會」において研究報告（COVID-19 による渡航禁止のため代読にて）を行った報告内容が、2021 年に同国際シンポジウム論文集に掲載された（査読有）。
本研究の波及的成果として、田代に関する研究代表者の論文を読んだ農学系の研究者（森林政策学）からの依頼により、研究代表者が田代の植物研究に関する一次史料の情報提供を行ったことによって、同研究者により沖縄や台湾等における「福木」という防風林の植物研究の成果が公刊された。
本研究に関わる国際的な貢献として、台湾の文化部（文科省に相当）の助成により、研究代表者が専門的な立場から指導助言を行った「牡丹社事件」のドキュメンタリーが完成した。2021 年 10 月に台北で試写会が開催され、研究代表者はビデオメッセージで同ドキュメンタリーの意義などを説明した。同ドキュメンタリーは、その後、事件の発生地である台湾南部の国立大学を中心に教育機関などで先行上映されていることは特記しておきたい。
②第二年度には、本研究に関連する研究成果の一部について、台湾・国立成功大学からの招聘により、国際シンポジウム「臺灣文化的形塑與構成」において研究報告（COVID-19 の影響によりオンラインにて）を行った。他にも関連する研究成果として、「国公立博物館歴史展示記述」に関する原稿が科研の報告書に収録された。
本研究の波及的成果として、「琉球処分」に関する識者談話を沖縄の地元紙に寄せた。
③最終年度には、田代の「旧慣」調査に基づく建議と統治政策に関する論文をまとめた。本研究に関連する研究成果の一部について、台湾・国立成功大学からの招聘により、国際シンポジウム「近代臺灣週邊海域」において研究報告（COVID-19 の影響によりオンラインにて）を行った。
本研究の波及的な成果として、2024 年が「台湾出兵」から 150 年となるため、琉球漂流民殺害事件を契機として日本初の海外派兵である「台湾出兵」から「琉球処分」に至るまでの歴史的事実が、今日どのような教訓となり得るのか、という視点から論じたオピニオンが全国紙に掲載された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 大浜郁子	４．巻 1
２．論文標題 「国公立博物館歴史展示記述」に関する今後の課題と展望	５．発行年 2022年
３．雑誌名 『「日本と韓国の自国史教科書における植民地期関係記述の到達点および共有可能な歴史的事実の検討」科学研究費補助金基盤研究（B）19H01304 報告書』	６．最初と最後の頁 219-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大浜郁子	４．巻 11
２．論文標題 田代安定に関する史料学的研究ー沖縄・八重山と台湾・「原住民」関係史料を軸に	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『第十一屆臺灣總督府档案學術研討會論文集』	６．最初と最後の頁 127-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　2件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 大浜郁子
２．発表標題 「琉球帰属問題」と「牡丹社事件」にみる日清琉台関係史
３．学会等名 「近代台灣週邊海域」國際學術研討論會（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 大浜郁子
２．発表標題 琉球・沖縄史と台湾史の比較研究の意義と今後の展望ー日本植民地統治期に焦点をあてて
３．学会等名 「臺灣文化的形塑與構成」國際學術研討會（招待講演）
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関